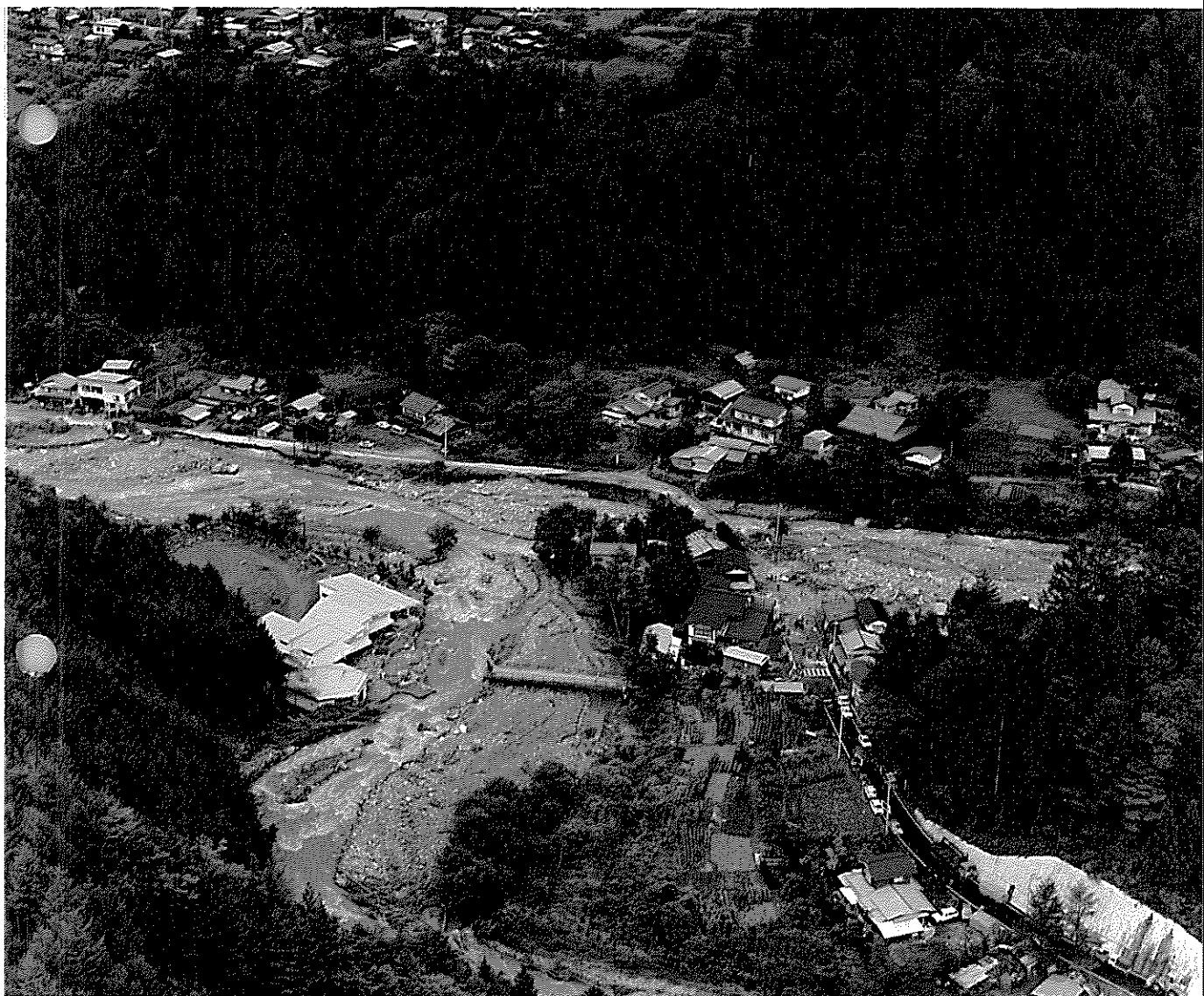


集中豪雨の傷跡

58災害の記録 (S58.9.28)



長野県南安曇郡奈川村

ごあいさつ



奈川村長

嶋 口 儀 久

昭和58年9月28日、この日は奈川村にとって永久に忘れることの出来ない日でありました。台風10号の前兆で連日降り続いた雨は昼頃より急速に激しくなり、矢を射るような集中豪雨となって、みるみる河川は増水し数十の谷川は上流の崩落を伴い、流域の立木を薙ぎ倒して土石木一体となり奈川に殺到して、村始まって以来の大洪水となりました。兩岸の堤防を破壊して被害は全村に広がり、公共施設、個人住宅の流失、浸水は数十棟に達し、道路は寸断されて村外へは勿論、集落ごとの交通も途絶して、妊婦、急患等はヘリコプターで空輸する有様で、被害総額は56億円に達する大災害となりました。それにもかかわらず人身事故が皆無であったことは誠に不幸中の幸いでありました。

又、県よりは即刻災害救助法を適用され、被災者の救済を頂き、村民一体となって応急工事に努力し、その後、国の激甚災害の指定も得られ一意専心復旧に努力した結果、災害後満2ヶ年にしておおむね被災前の状態に復旧出来たことは誠に有難く、関係機関並びに御協力を頂きました関係者に厚く御礼を申し上げる次第であります。

村は、この大災害の記録を永く後世に残し、当時の実状を子孫に伝えると共に災害の恐ろしさを想い出し、常に防災の重要性を痛感する資料に供したいと考え、今回災害の実態及び復興の状況を集録した本書発刊の運びとなった処であります。

終りに本書の作成に当り資料の提供を始め編集に努力されました関係者に深く敬意を表しまして刊行の言葉と致します。



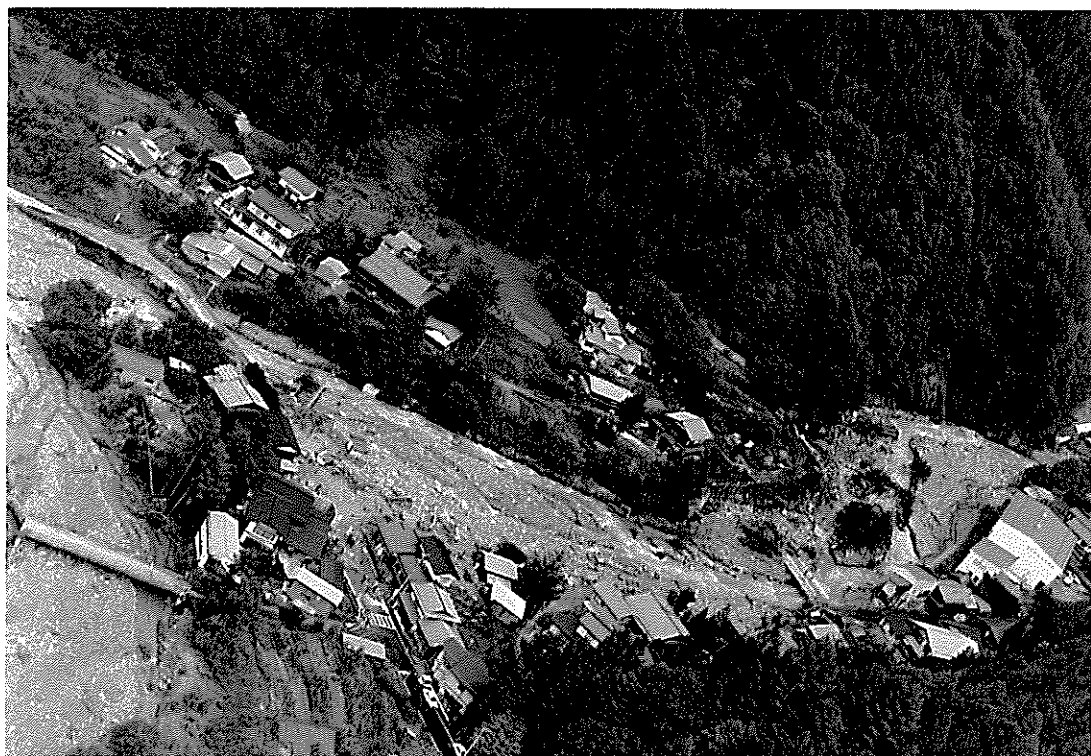
▲ 夕暮れ時、流失寸前の神谷橋



▲ まもなく、この一帯は全て濁流に

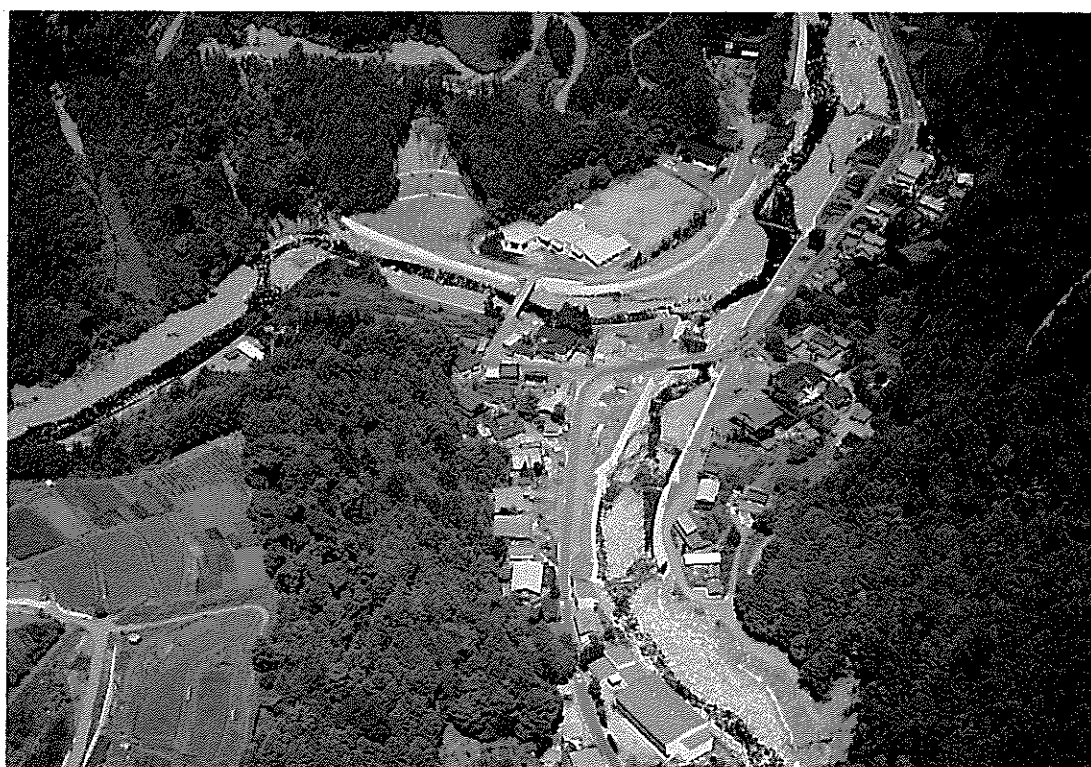
目 次	
ごあいさつ	表紙裏
概 況 図	2
公共施設	4,5
視察・救援	6
資 料	7,8
体 験 談	9~14
通信関係	15
河川・道路	16~19
農業用施設	20
治 山	裏表紙裏

寄合渡被災地



▲災害直後の寄合渡地区

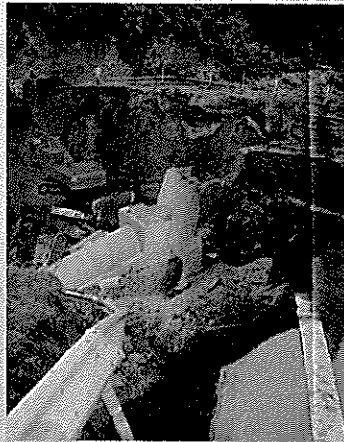
▼着々と復興中



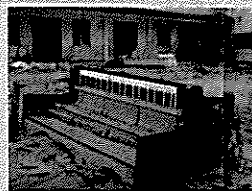
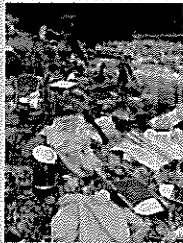
概況図



山村に傷跡深く
奈川



と復旧懸命の住民



県道で最も被害が大きく最後の不通箇所
復旧後は橋梁となった

隧道内も土砂に埋まった

宮野宮子さん住宅半壊

流路工の為被害が少なかった

川瀬建設事務所、吉田梅子さん住宅土砂に埋まる

林道河川に大災害

奥原二美入氏、勝山周氏住宅裏土砂押出す

農協倉庫流失
林道河川に大災害

旧寄合渡分校体育館
(授産所)流失

勝山俊一氏畜舎流失

勝山良太郎氏住宅畜舎流失

奥原良一氏住宅流失

保育園流失

あづみ農協奈川支所南部出張所流失

大和屋旅館土砂に埋まる

寄合渡郵便局、奥原利夫氏畜舎流失

床上浸水地区

神谷宮橋流失

川浦区公会堂流失

神谷観音堂流失

そばの里土砂に埋まる

林道河川に大災害

奥原きぬさん住宅裏山崩れ土砂押し出す

流失して、そして……



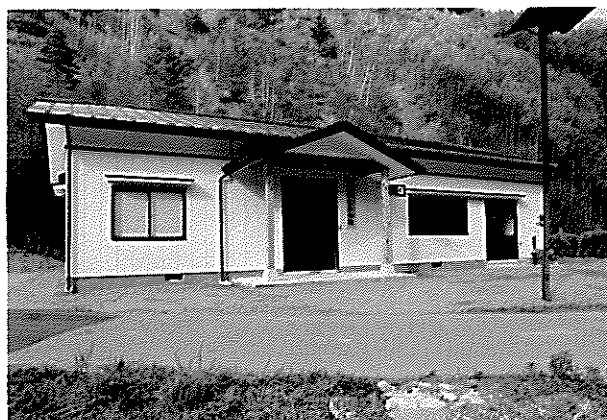
◀ 大平、勝山良太郎氏宅は雨がこやみになってからの夜9時頃、畜舎に続いて住宅も濁流に呑まれた

▼ 不便な仮設住まいから開放され、立派な新居へ

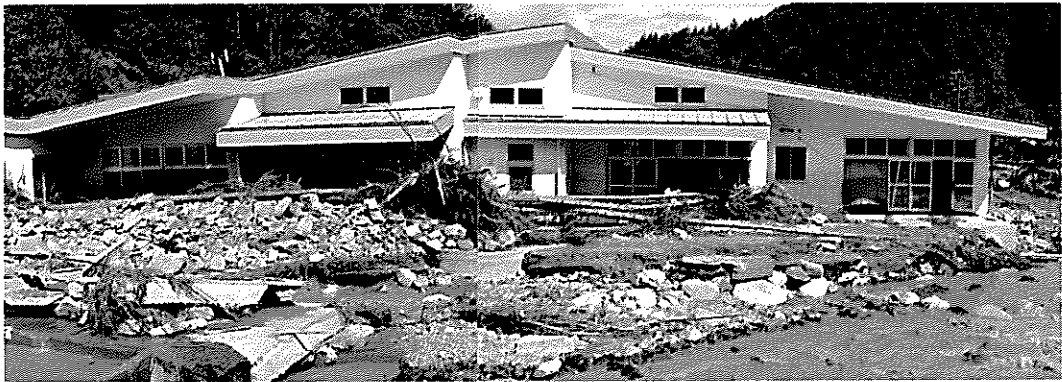


▲ 傾いた火の見やぐらの横に
川浦公会堂があったのだが……

▼ 関係者のご協力により
立派な公会堂が再建された



公 共 施 設 保 育 所

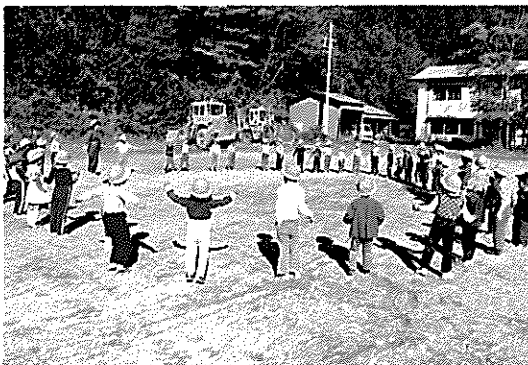


▲ 保育所南側から奈川が直撃、建物内部はすべて濁流に呑みこまれた。幸い早目の避難で一人のケガもなかった



◀ 新聞にも何回も大きく報道された

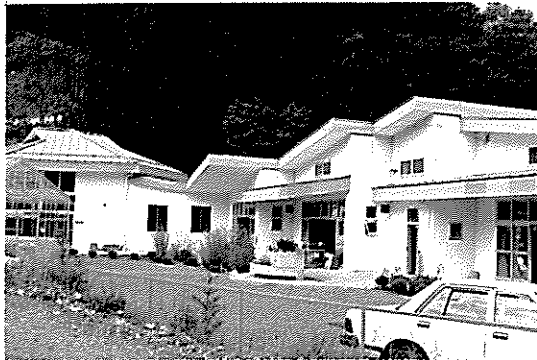
▼ 仮保育所でも子供たちは元気な声を青空にひびかせていた



▼ 懸命の排土作業を続ける消防団員



授産所、そばの里、農 協



▲ 新築時同様に復旧した保育所



▲ 授産所も明るく再建された



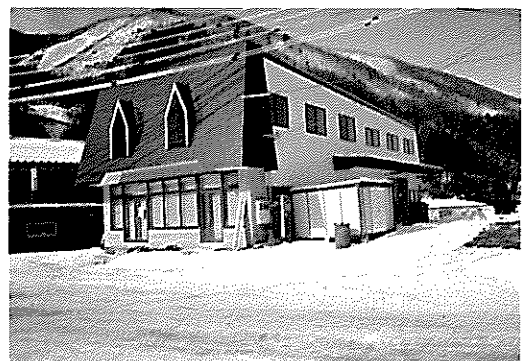
▲ 窓の上まで土砂に埋まった
“そばの里”

復旧後は
観光客でにぎわっている ▶



▲ 全滅状態となった
あづみ農協奈川支所南部出張所

仮店舗を経て
ようやく新築店に落ちついた ▶



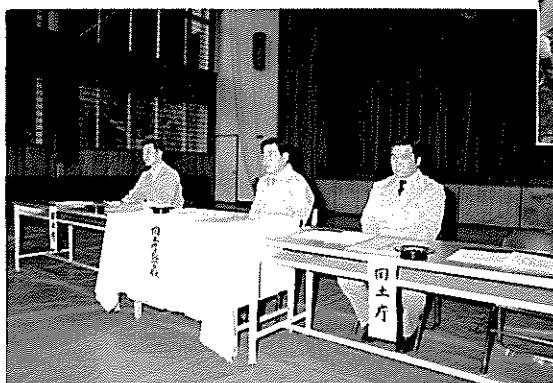
視察・救援



▲ 早速(9月30日)ヘリコプターにて
吉村知事が視察、激励された

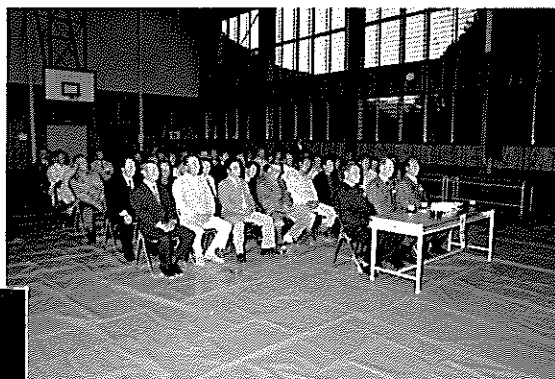


▲ 自衛隊のヘリで救援物資が到着



▲ 国土庁長官にも忙しい中を駆け
つけて頂き、視察、激励を受けた

▼ 長官に窮状を訴える住民代表



◀ 各分野の方々が
忙しく出入りする対策本部

災害復旧工事実施状況

昭和58年9月28日台風10号災害(58.9災)の足跡

(一部未完成も含む)

9月20日	グアム島附近で台風10号発生
9月26日	北西に向けゆっくり進む 台風は東シナ海に達し、向きを北から東に変える
9月28日	台風は弱まりながら10時20分頃長崎市附近に上陸 前線を刺激する

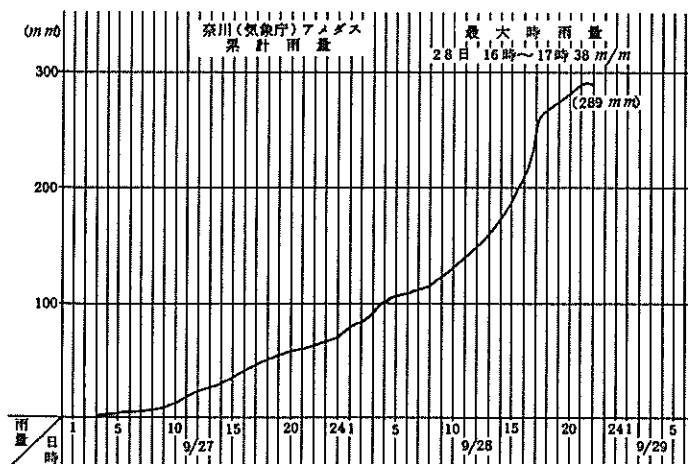
奈川村では

9月28日	早朝から雨が降り出す 10時頃よりどしやぶりとなる 大雨洪水警報発令 13時30分頃より村内各地土砂流失 増浸水の報が続々入り始める 14時～17時の雨量77mm 15時 台風10号奈川村災害対策本部設置 停電、電話不通となる
9月29日	災害救助法適用
9月30日	10時30分 自衛隊ヘリコプターによる緊急物資輸送 13時50分 県知事ヘリコプターにて被災状況視察 電気全村通電
10月1日	役場以北市外通話復旧
10月2日	県道保平まで2t規制で開通
10月5日	消防団全員による保育所の土砂搬出
10月6日	県道奈川～木祖線開通 全村電話復旧
10月7日	県土木部長視察来村
10月8日	簡易水道全村仮復旧
10月9日	県副知事状況視察来村
10月11日	仮保育所を開設(59年2月8日復旧した保育所へ)
10月12日	加藤国土庁長官視察来村

区分		箇所数	事業費	備考
県発注分	国、県道	75 ^{ヶ所}	1,042,258 ^{千円}	
	河 川	19	482,280	
	治 山	17	218,167	
村発注分	村 道	24	196,731	
	河 川	5	299,185	
	橋 梁	5	34,054	
	耕 地	30	180,430	
	林 道	40	320,035	
	水 道	22	31,646	
	公共建物	3	89,250	川浦公会堂含む
合 計		240	2,894,035	

災害見舞金の支給状況 (村単独分)

被害の程度	戸数	一戸当り	金 額	備 考
流 失	1		500,000	
全 壊	2	300,000	600,000	
半 壊	2	200,000	400,000	一部埋没
床上浸水	2	50,000	100,000	
床下浸水	19	20,000	380,000	同程度のもの含む
畜舎流失	3	100,000	300,000	
公会堂流失	1		300,000	川浦公会堂
計			2,580,000	



住家等の被害

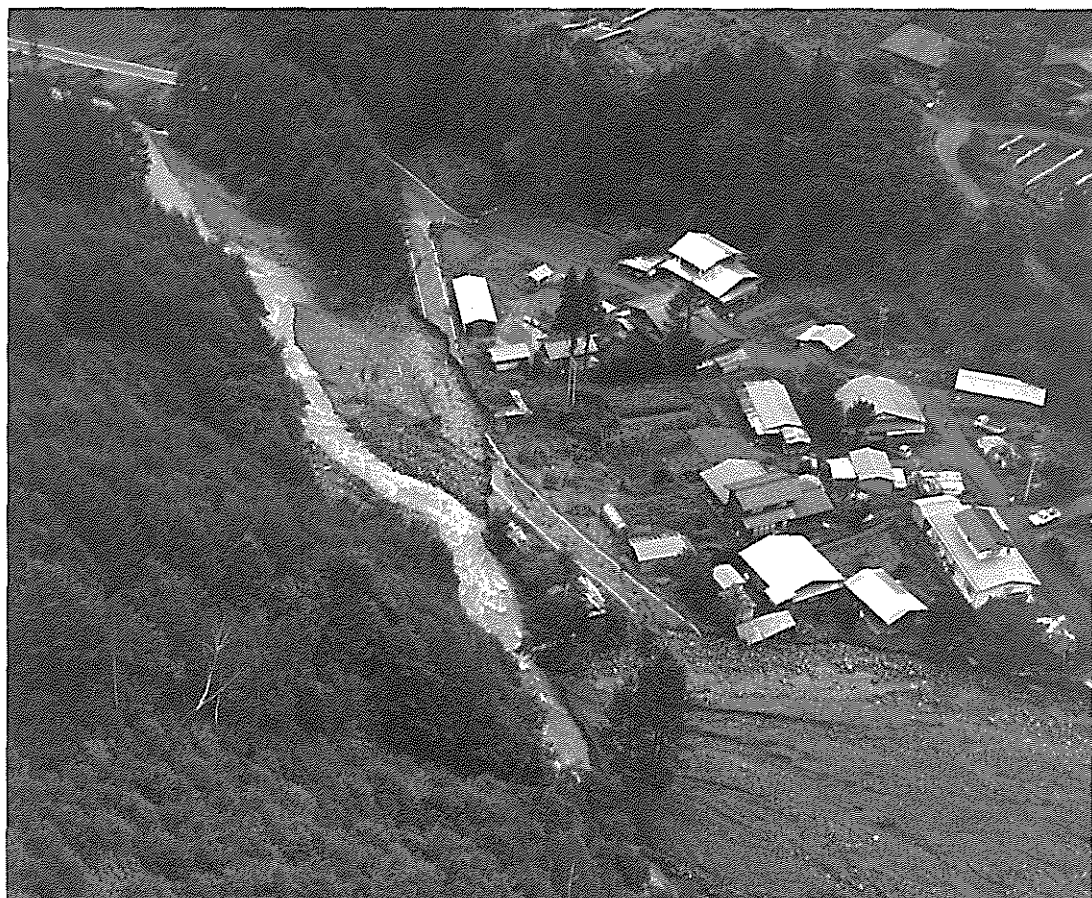
住 家					非住家
全壊	半壊	一部 損壊	床上 浸水	床下 浸水	全半壊
4	1		15	21	13

公共建物の被害状況

程度	名 称	被害金額	備 考
流失	寄合渡郵便局	15,000千円	
全壊	奈川村保育所	65,000	プール含む
〃	自然環境活用センター	8,000	そばの里
流失	川浦公会堂	15,000	
〃	川浦ポンプ置場	800	
計		103,800	

被害状況集計表 (単位：千円)

被害総額	農業関係被害	林業関係被害	公共土木施設被害	水道施設被害	商工関係被害	その他被害
5,139,583	562,700	1,932,260	2,448,550	39,000	90,773	66,300



▲ 至るところで道路が寸断されて……(川浦地区)



さいがいの日のこと

小2 おくはら しずお

9月28日、ぼくたちは先生たちの会で、学校が休みでした。雨がふっていたのでぼくは一人で家でずばんをしていました。おかあさんはじどう車の学校へ行ってお昼ごろ帰ってきて田んぼや畑の水をきりに行くと言って山へ行きました。いもうとはいつもより早く帰ってきてぼくといっしょにテレビを見たり本を見たりしているとでんきがきえてしまったので、ぼくが外へ出てみるとこうばへ行くはしが水でながされそうになっていて、家へ帰ってくるとうらの山がくんできていて、おばあちゃんやとなりのおばちゃんが大さわぎをしていました。

家のまわりも畑も川のようになっていました。ぼくもてつだおうとしたけど「ながされるから家に入っていないさい。」と言われたので、いもうととてるてるぼうずを作っていました。少しするとおかあさんが帰ってきてカップをぬいだかと思うとあわてて「おにぎりを作るからてつだって。」と言いました。おかあさんがにぎってぼくがのりをつけました。いっぱい作りました。紙につつんでこんどはなにをするかと思ったら「リュックやランドセルをもってきて、いそいでだいじなものをいれなさい。」といったので、ぼくはペンキょうのどうぐとプラモデルをよういしました。いもうとはおりがみやにぎょうやバックをもっていたのでおかあさんは大きな声で「そんなものいいから学校のものとほいくえんのものをもちなさい。」と言いました。

おかあさんは、大きなリュックにみんなのきがえやパンツなんかを入れていました。食べものもいっぱい入れていました。ぼくがにげようとしていとおとうさんやおばさんがきて「どこへ行くよ、行くところもないよ。」とわらいました。また外へ出て見ると家の前の道までも川がながれていました。外はもうまっくらでした。ローソクをなんぼんもたててみんなで夕はんにおにぎりを食べました。

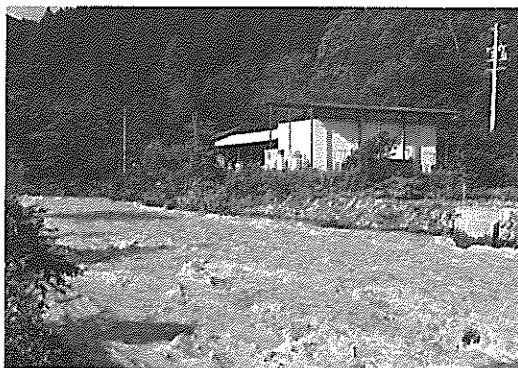
おとうさんは、またカップをきて外へ行きました。

した。外へ行くとおじさんやしょうぼうのおじさんたちが土をふくろに入れていました。おとうさんはまだ帰ってこないでぼくは、いもうととストーブの前でモーフをかむってねてしまいました。

朝になると、天気もよくておとうさんもいました。「おとうさんどこにいたの。」ときくと「こうかいどうにしょうぼうのおじさんたちといたよ。」と言いました。

朝ごはんを食べておばあさんが山がくずれたところや川が大きくなったところを見に行こうと言ったのでぼくといもうとがついて行くと、こうばへ行くはしもなくなって小さかった川も大きな川になって畑の中には大きな石や木がながれていてびっくりしました。いもうとは、ほいくえんへ行くと行ってないのでおばあさんは、「ほいくえんへいきたくてもいけないよ。」といってながされてしまったほいくえんを見せにいもうとをつれていきました。おとうさんやおかあさんはよりあいののうきょうや家のおてつだいにいきました。おばあさんは、はしがなくなってしまったのでこうばへもいけませんでした。

休みがおわって学校へ来るとちゅうバスの外を見てくると、道がくずれたり家がながされたりしていたのでぼくは、さいがいてこんなにわるいいたずらをするかいじゅうかなあとびっくりしました。





さいがいの日のこと

小二 菅 原 奈実恵

9月28日は、朝から、一日じゅう、雨ふりでした。

わたしは、午後から、おかあさんのおしごとへついていって、こうばにいきました。

あまり雨が、つよくふるので、2時40分ごろ、おかあさんたちと家へかえってきました。家についたらすぐでんわがあつて「かぎくさんを、むかえにきてください。」といわれおかあさんがすぐむかえにいて、いもうとをつれてきました。

3時10分ごろ、家のうらのほうで、ゴーという音がしました。おもてへ出てみると、うらの山がくずれて、川の中へおちてきました。わたしは、山の木で川の水があふれて家がながされるかもしれないとしんぱいしました。

3時30分ごろ、おとうさんがかえってきましたが、すぐしょうぼうのしたくをして出て行きました。あとから聞いた話ですが、そのとき「よりあいどのゆうびんきょくが、ながされそうだった。」ということです。

わたしといもうととおかあさんは、べんきょうどうぐとわたしのつくえの上のたいせつなものをもってすぐちかくのほんけにひなんしました。くらくなっても、でんきはつかないし、テレビもうつらないしでんわもつうじないし、ロウソクのあかりがゆらゆらして、おばけができそうで、ものすごくこわかった。

おとうさんは9時ごろかえってきて、ごはん

をたべて、すぐ出て行きました。ひとばんじゅうけいかいをして、朝6時にかえってきました。そして、おとうさんにいろいろ話を聞きました。

一ばんはじめさくらちゃんのしたの家の「まや」がながされそうだったので、しょうぼうの人たちがみんなで「あおり」というものをなんぼんもいれたそうです。それでも4時15分ごろ、その「まや」がながされはじめました。「まや」がぜんぶながされるまでには、30分ぐらいかかりました。そのしたのゆうびんきょくは、5分ぐらいでながされました。やまとやとのうきょうは、あつというまに水につかったそうです。家やおみせが、あつというまに水につかってながされてしまったのでびっくりしました。

のうきょうもやまとやも、みんなおみせやさんでした。水がいにあって、家とか店がながされたり水につかったりするからこわかったです。



大水害について

小4 古 幡 千香代

秋休みの第一日目、まだ雨がふっていた。私は、えらいふりようだなと思いながら家でテレビを見ていた。

2時半ごろには、もう雨の音がすごかった。それで、家に電話がきて、4時に弟達が来るといふ知らせが入ったので、弟を待っていた。そして、5分か6分たったころ又電話がきて、弟

達が今度3時に来るといふ知らせが入って来たので私は3時5、6分前に家を出て、弟をむかえに行った。

私は、バス停に入り弟達が帰ってくる方向を見ると道路の所がドロ水になって左側の道の所にドロ水がすごい勢いで流れていた。そして、いったん静かになったかなと思ったら今度はゴ

トゴトというもうれつな音がした。私は、弟達大丈夫かなあと心配していた。そしたら、幼稚園バスがドロ水の所から出て来た。私は、あよかったなあと安心した。

私はお母さんに、「何だかあっちの所がドロ水になっていたよ。」と言ったら、「たぶん、どこかの所で土がくずれたかもよ。」と言った。

5時もすぎて、お父さんが帰り「消防で見回りをして来る。」と言って家から出ていった。私は、おなかがすいたので夕飯を食べていた。とたんに、電気が消え、しかも水までも止まってしまった。私が、お母さんの顔を見ると困った顔をしていた。しかたがないので、ろうそくを2本立ててため息をついていた。

時間も立ち、7時ごろになった時にゴロゴロとすごい音がしたのでお母さんはあわてて外を

見たけれども何もなかった。8時9時10時すぎまで私だけ起きていた。もといとお母さんは、もうぐっすりねていた。私も、だんだんねむくなって来たのでねてしまった。

そして、私は2時ごろ起きてみたら雨もやみシーンと静まりかえっていた。私は安心してねた。とってもこわかった。

9月29日、朝起きて見たら天気はとってもきれいだった。だから、テレビがつくかなと思ったのでつけてみたら、まだ写っていないかった。

この日は、電気もつかなくて水も出なくていやな日だった。だから、昼も夜もカップラーメンばかりだった。私は、早く電気がつかないかなあと思っていたらパツとついた。私は、あよかったなあと考えた。後は水が出てくれればいい。

とっても恐ろしい水害だった。



台風10号の災害を受けて

小5 奥原 哲也

9月28日は、朝から雨がふっていた。

朝、朝食を食べて、2階に上がって外を見ました。

川は、ふつうの時より、水の量が多い。ずっと見ていたら、木や木の切りかぶが流れてきた。そのほかに、木のえだも流れてきた。

そうしているうちに、ひなんすることになった。そして、車で水の流れている道を行った。農協の前を行ったら水が車の横の所ですごくはねて、まどがみえなくなった。そして、ついた。2階に上がって外を見た。見ているうちに、水量がふえてきて、農協やヤマトヤに水が来た。

ずっと見ていたら、ゆうびんきょくのポスト

が流れて、そのあとは、ゆうびんきょくが流れた。それから、寄合渡のバス停が流れだした。ガソリンスタンドも流れた。それから、農協とヤマトヤを見ていたら、表のガラスが、「ガチャン。」とわれた。

水は、なみのようにになっていた。そのほかに、サイロを入れるのや、木のえだなどが流れてきた。大きな木も流れてきた。ほいくえんの方を見たら、はしはあるけど、その先はなかった。川の水が、あふれて流してしまったのです。ほいくえんは、あふれだした水が運んできた木などで、ガラスがわれました。木なども、もう中の方に入っていました。とても、おっかなかった。



恐ろしい台風10号

中1 小林 玉紀

9月28日

台風10号の影響で、朝からずっと雨が降り続ける。午後になり、川の水がきゅうにふえ、もうすぐ橋につきそうだった。午後3時ごろ、橋に、上の方から流されてきた木がひっきり、

そこから水が少しずつあふれ出てきて、みんなが外に出て心配そうに見ていた。時間がたつにつれて、橋にひっかかる木がふえ、水のあふれる量もだんだんふえてきた。半鐘をたたき、大人の人達が、雨具を着て集まってきた。田んぼ

体 験 談



の方も、上からくずれてきたり、土手がくずれたりして、大変だと聞いた。橋は、上が木でできていたため、木に押されて流されてきた木といっしょになって、下に流れていってしまった。

だんだん暗くなってきて、川がよく見えなくなってきた。大人の人は、家の方に水がこないようにと、袋に砂をつめたり、木をおいたりしていた。たくさんの雨で、上の方から牛にえさをやる入れ物や、牛のえさや、その他いろいろな物が流れてきた。少し小降りになったかと思うと、またたくさん降ってきたりして、じれったい天気だと思った。

夕方になると、電気・水・電話がつかえなくなった。山の水も、どこかで管がきれたらしく、ぜんぜん出ない。どこの家でも、電池をかいにきていたけれども、すぐにうれてしまった。

いざという時のために、食べ物を買ってきた。

うえむらの家の、牛小屋も少しつぶされたらしい。とちぶらの川は、すごく広がってきて、いつ、家のある方にくるかわからないので、大人の人達は、みんな心配そうな顔をしていた。

だんだん雨がおさまってきて、もうそれほど心配ないだろうとお母さんが言ったので、午後9時ころには寝始めた。大人の人達が、家の前に集まって、同じようなことをながながと話していたが、寝てしまったので、あとのことはわからない。

29日

朝起きてみると、とてもいい天気だった。雨はもう12時にはほとんどやんでしまったということだった。下の方に仕事にいった人が帰ってきた。上の方の人は、リュックなどをしょって

食べ物をたくさん買いに来ていた。大人は、ほとんどの人が、伸晃君の家の小屋の所をかたづけに行った。なんにも仕事がなかったので、午前中は、寄合渡の方の様子を見に行ってきた。神谷と寄合渡の間にある道は、三ヶ所くらい上から土がくずれてきていたし、道がこわれている所もあった。

寄合渡の郵便局は、ぜんぜん残っていなかったし、農協とやまとやは下の方までどろが入ってきていた。近くの2件の家も、どろが入ってきていた。

午後には、奥神谷の方を見にいってきた。とちぶらざわの所はすごく広がって、道がとちままでけずられて、そこが川になっていた。お堂は流されてしまい、5、6個残っているだけだった。お墓も、土砂につぶされているのが少しあった。

下の方と同じで、奥の方も道がくずれていた。ます池も、上から水が木を押し流してきていて、ごちゃごちゃになっていた。

夜はローソクでの暗い夕食だった。

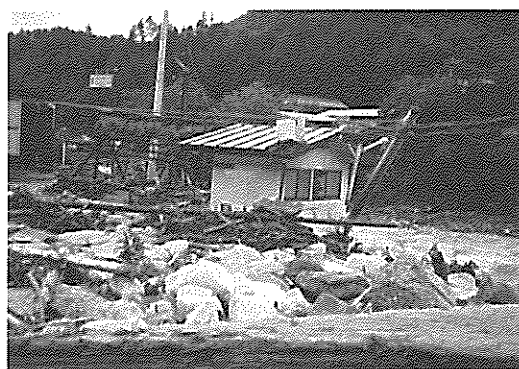
30日

午前中、山の方へ行ってきた。

牧場に通じる道は、土がくずれてきたりして、車では通れないようになっていた。

帰りは田んぼの方を見て帰った。ところどころだったけど、土手の土と草がそのままの形で、田んぼの中にくずれてきていた。

恐ろしい台風10号でした。





恐かった台風10号

中2 勝 山 美 香

9月28日は、秋の中間休みのスタートでした。朝から雨が降り続き、午後5時前から、黒川渡のおばちゃんから、「うら山に注意して、時々みていろな。」と電話がかかってきました。その後、両親からも電話がかかってきました。時々外に出てみると、道路に水が流れていたけど、だいじょうぶかなと思って家にいました。

5時2・3分前、お母さんがあわてているような顔をして入ってくると、いきなり「早くカッパきて外へ出ろ。」といって、家の前の道路へ行って、やっと、危険な事が起こるんだなあと思いがつきました。家の隣の畑にいたけど、危ないようだったので、おじいちゃんのいはいをもって、岩山へ登ってようすを見ていました。橋がてっぽう水で流れてくると思ったが、びくともしなかった。川が海のように、波をうつように流れ、ガードレールがめらめらとひきずりこまれ、道路が、川の中に落ちてしまった。あの橋が流れてしまっていればよかったのにも思いました。ようすを見てみると、さちよさんのお父さんがきて、「家にこい。」といってくれて、またひなんしました。

夜は、心配で心配で、よく眠ることができませんでした。見まわりにお父さんたちが夜中に行ってみると、「隣の家は3分の1しか残っていない。」といって帰ってきました。

30日の朝は、みんなが早く起きて、ようすをみていました。やっぱり隣の家は、ほんの少し残って、もう一つの隣の家は、床下がえぐれて

いました。その部屋のものは、私の家にはこんできました。その後、川の水はだんだん減ってきました。この日の夜は、家で寝ました。やっぱり家はいいものだなあと思いました。

その後、親せきのおばちゃんや、波田のおじちゃんや、松本のおじちゃんたちが、歩いてきてくれました。こういうとき、親類の人たちがいてくれて、ほんとうによかったと思いました。村の人たちも、親切にしてくれて、よかったと思いました。

10月1日、この日は、電気もつき、テレビもうつるようになった。でもNHKしかうつらなかった。奈川のことが、テレビに大きくうつり、すごいなあと思った。

この経験で知ったことは、「命が助かっただけでもいい。」と話をしていることを聞きました。自分でも、その日が夜ではなくて、よかったと思いました。



災害の恐ろしさを初めて知った私

中3 向 井 亜紀子

9月28日、その日は妹の友だちが朝から来ていた。そして、3時ごろ母に忠地川の辺りが崩れたと聞き、しばらくして、その子のお母さんが迎えに来て、他の道を通って帰っていった。それから30分くらい後には、古宿の方のその道

は何ヵ所か土砂にうまっていたということを知った。本当に危なかったと思った。

この日は工場の人たちも早く帰っていき、父とおじさんが雨がっぱを着て、うちの上の方へ行って水が私の家の方にこないように、他の道

をつくり流す作業をしていた。私も、父たちの様子や雨が前にも増して激しくなったのを見て、これはただごとではないと思った。

夕食の時、松本の方へ帰れなくなってしまったうちの仕事の関係の人や、古宿から来ている工場の人でやはり帰れなくなってしまった人たちと父との会話を聞いた。寄合渡の郵便局や農協が流れてしまったこと、忠地川も危ないとか、お父さんや、工場のおじさんも危ないめにあったことなど、恐い災害の様子を聞いていて、私の家は安全だったけれど、恐ろしい目に会っている人のことを思うと、大変だろうなあ、かわいそうだなあと感じた。

次の朝、まるできのうの大雨がうそのように晴れ上がり驚いた。そして、わたしの家から忠地川やダムが見えるので、見てみた。とてもびっくりした。ダムには、恐ろしい程の量の土砂が流れてきて山のようになっていた。そして、忠地川の辺は、整備されていた道は水によって

崩壊され見る影もなかった。めちゃめちゃだった。

その朝は、6人分の朝食を作ったが、水道から水の流れてこない生活はとっても不便だった。

この日は仕事をするどころでなく、父は奈川村じゅうを回りに行った。この日は、村じゅうが大いそがしだったと思う。父から話を聞いても、そのようなことを言っていた。うそのような災害のあとの様子を聞いた。家を流された人、多くの財産を流された人、これからどうなるのだろうかと感じた。あんなに大きな災害に対しては、私たちはどうすることもできないのかとしみじみと感じた。奈川村は激甚災害指定になったから、今度こんなことがおこっても今回のように大きなことにならないような、奈川村になってほしいと思う。終ってしまったことはどうにもならないけれど、これからの奈川がこれを機会によりいっそう強くなってほしい。又、私たちも協力していきたいと思う。

必死だった4男の出産

志 水 正 子

一昨年台風災害の次の日に生まれた息子も満2才を迎えました。

復旧工事も着々と進んでいます。

まるでスローモーションの映像を見る様な何もかも押し流して行く濁流を見て鳥肌のたつような思いをした事を今もはっきり思い出すことができます。

次の朝、水の退いていった河原や道路、建物の残骸は自然の恐しさを改めて私達に教えているようでした。その時出産予定日を過ぎていた私は病院へ行けなくなった事が大変なショックで生きた心地がしない程でした。

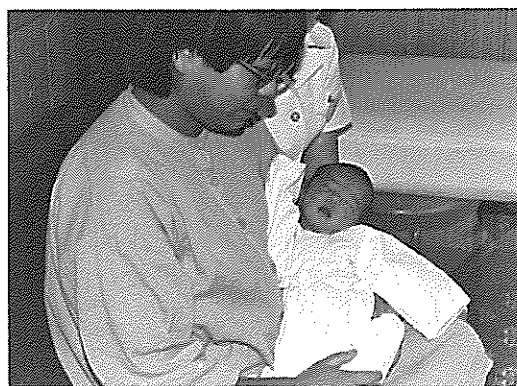
それでも次の朝ヘリコプターで病院へ運んでもらえることになりました。が朝を待たずにおなが痛み出してしまったのです。

自宅出産の勇気がない私は周りの人の迷惑も省みず主人や弟に病院へ連れて行ってくれるように頼みました。最初はとても無理だと言っていた弟も私の必死の頼みに先頭になって連れて

行ってくれる事になり、おばさん夫婦、義兄と5人に連れて行ってもらいました。

出がけに母が無事を祈って仏壇に線香をあげてくれました。道にある車をお借りしては乗り継ぎ、夢中で泥の中を歩きました。

あの時お世話になった御恩は一生忘れません。皆様ありがとうございました。

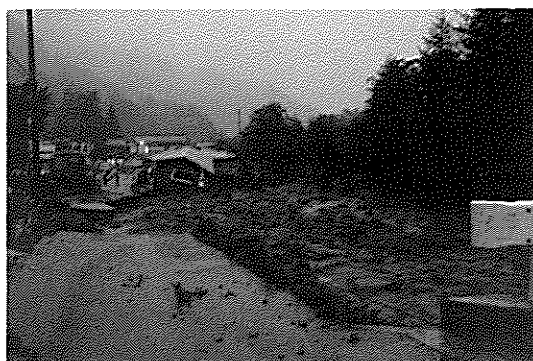


▲嵐をのり越えて
無事出産した母と子

通 信 関 係



▲ みんなに親しまれた寄合波郵便局



▲ 流失寸前の局舎



▲ 応急に出動して貰った
移動郵便局おとずれ号



▲ 現在業務を行なっている局舎



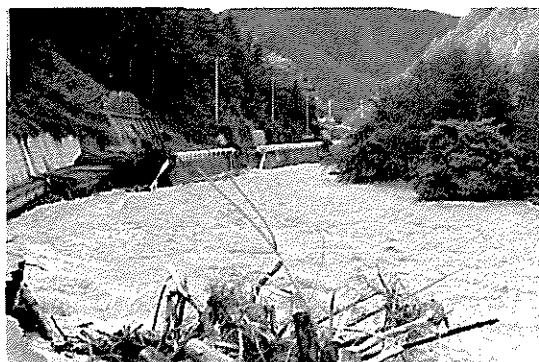
▶ 電柱倒壊など全滅状態であった
電気・電話も電線が寸断、



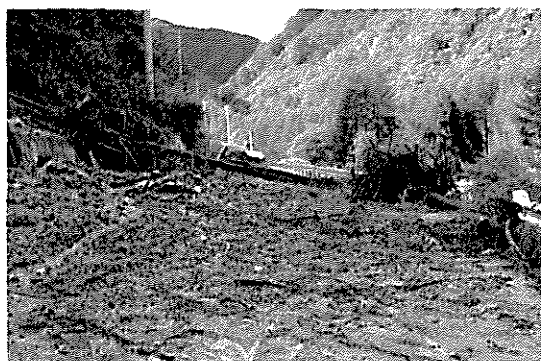
河川・道路の被災状況



▲ 完全にくぐり取られた
保平橋附近



▲ もの凄い濁流が
道路を削って……



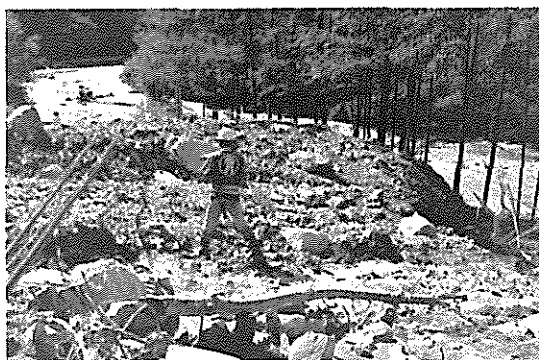
▲ 上から立木や土砂が押し出した
神谷新道地籍



▲ 荒れたことのない庚申沢であったが、
一変して大穴壊

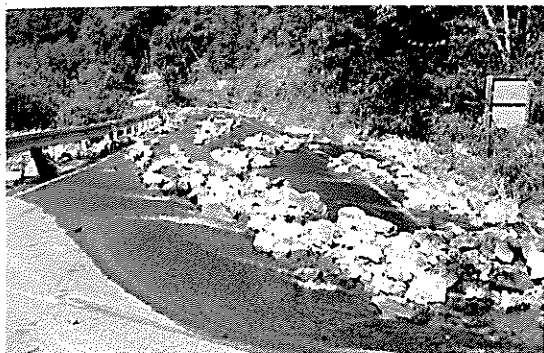


▲ 水の引きはじめた下島地籍の
流木の山



▼ 山腹から県道へ崩落
電話線もズタズタ 大平地籍

河川・道路の被災状況



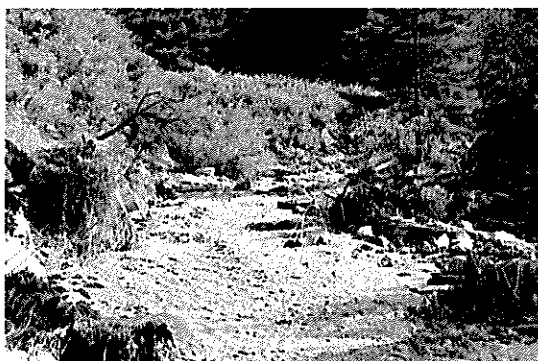
▲ 舗装完成後もない
正沢林道も河原となる



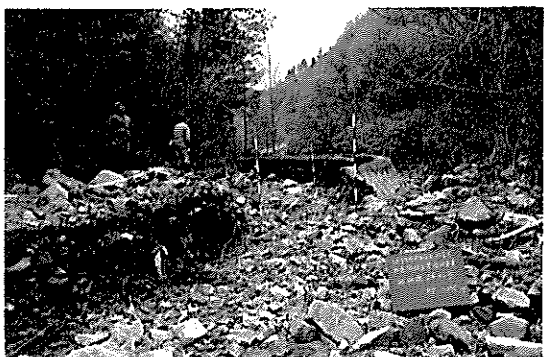
▲ ぱっくりと完全に
えぐり取られた正沢林道



▲ 林道曾倉沢線入口にある勝山清吉
氏住宅はよもやと思われる位置だ
ったが流失の危険にさらされた



▲ 林道がそのまま河川となった
曾倉沢線

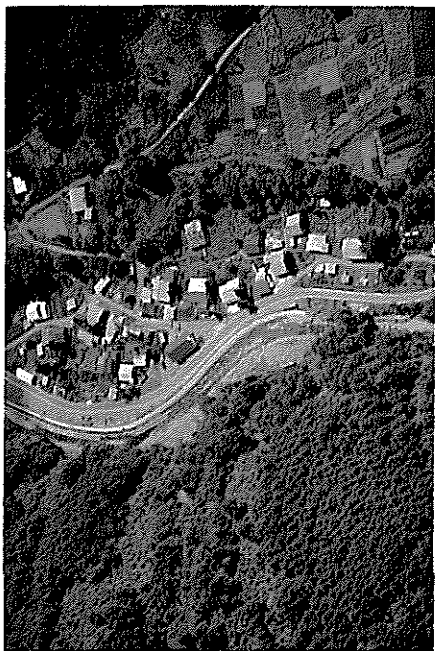


▲ 林道栃洞線も河原と化した



▼ 惨たんたる栃洞線

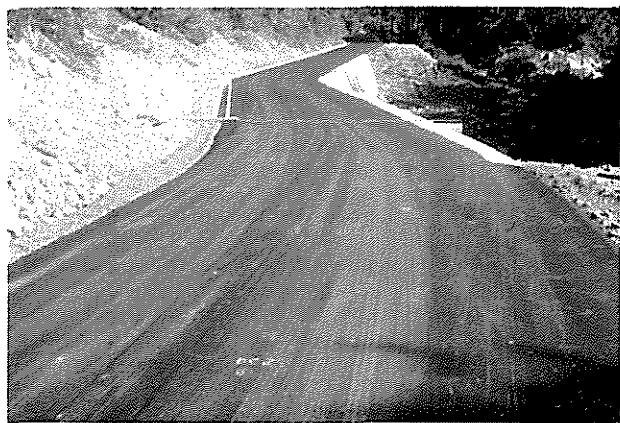
復旧なった河川・道路



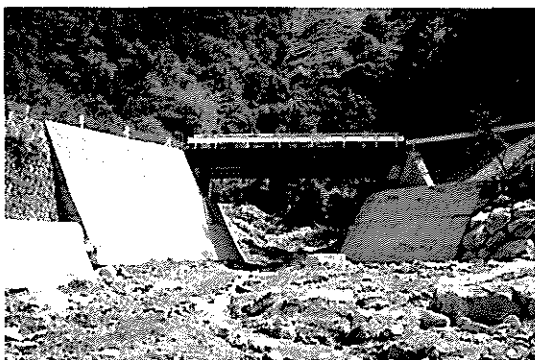
▲ 県道は削られ公会堂も押し流されたが全てが復旧した



▲ 整然となった曾倉沢



▲ 林道の跡形もなかったが見事に復旧した正沢林道

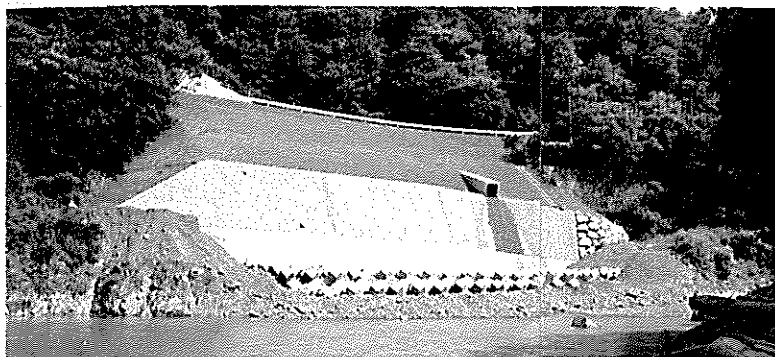


▲ 復旧に時間がかかったがきれいな橋となった村道大白川橋

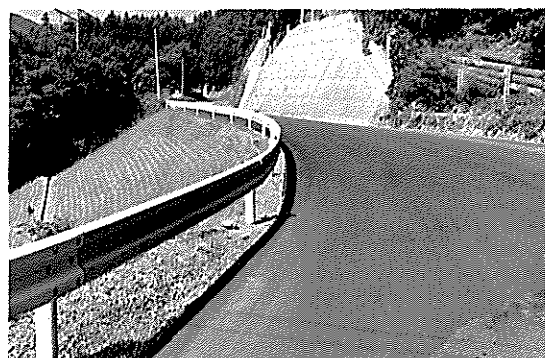
▼ 大変な難工事の末復旧なった曾倉沢林道



(県 道)



▲ 栈道による不便な通行から
解放された忠地川地籍



▼ 県道正沢橋より下流の
整備された河川



▲ 崩落がひどい為橋梁により復旧した
県道奈川木祖線 新湯道地籍



▼ 道路護岸がすっかり完成した
川浦地籍

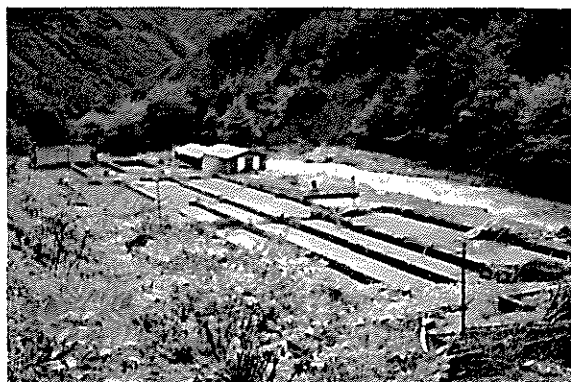


▲ 県道も民家も全て押し流された
大平地籍も全面復旧した

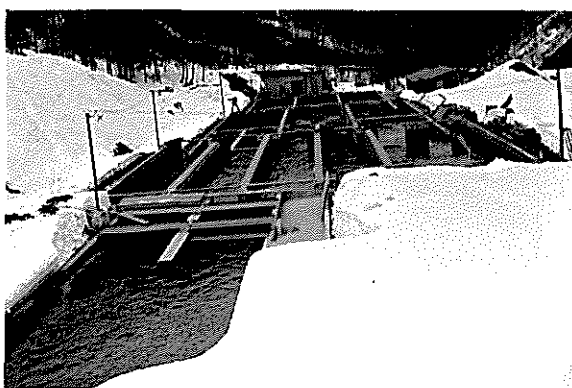


農業用施設

泥水につかり
魚が全滅した養魚池 ▶



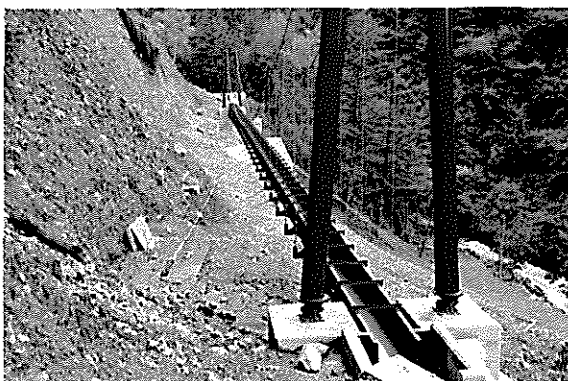
▼ 必死の排土作業により
ようやく魚の住める池になった



山ごと崩落した ▶
神谷農業用水



▼ 難工事の末、水路橋にて復旧

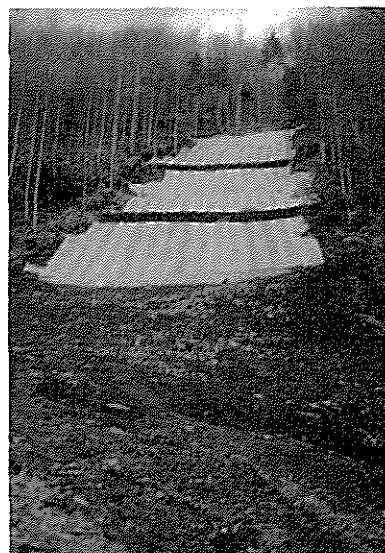


治 山



▲ 裏山が押し出してつぶされた保平
奥原今朝男氏 蔵

▶ 治山工事により
裏山も落ち着き一安心



◀ 村道、県道とも泥流に押し流された
新潟道地籍

▼ 多大な日数と経費を要した復旧治山、新潟道





▲ 流木が欄干を直撃、橋の流失は免れたものの
すぐ下流の民家が押し流された



▼ 夕暮れ迫り不安をつのらせる濁流
和手橋にて